

テキストドイツ語と Der Spiegel における語彙の分布と複合名詞の比較

山 田 芳 樹

A comparative study of German vocabulary and compound nouns between our text of German and German in the articles of "Der Spiegel"

Yoshiki YAMADA

The study of linguistics has grown up in many widely parts of the world. Conducting researches in the aspects of vocabulary, the subject may be viewed from two aspects, which are word-formation and lexis.

In this thesis the parts of speech and compound nouns are investigated here to do the comparative study between the German text for beginners or intermediate students in Japan and the popular weekly magazine in west Germany "Der Spiegel".

0. は じ め に

言語の研究は様々なレベルで行われているが、語彙の研究分野に限って言えば、大きく分けて造語論と語彙論と言う領域がある。しかし日本ではこの分野の研究があまり確立されておらず、言語の本質となる語彙の研究があまり知られていないのは非常に残念な事である。ここでは日本におけるドイツ語の初級、中級用テキストと西ドイツの雑誌 "Der Spiegel" に現れる語彙の品詞構成の比較とそれぞれに現れる合成語（とりわけ複合名詞）の構造パターンの比較・検討をおこなう。

0-1 Duden の Bedeutungswörterbuch (BW) の品詞構成

日本の教科書に現れるドイツ語や本場ドイツの雑誌に現れるドイツ語の品詞構成を比較するために、先ず語彙の体系的な量の目安となる Duden の Bedeutungswörterbuch (BW) の品詞構成を挙げておく。〔表 I〕

〔表Ⅰ〕 BW(1970)の品詞構成 (語彙総数 24,629語) ※ 引用

名 詞	13,276(53.9%)	動 詞	6,173(25.1%)	形容詞	4,261(17.3%)
副 詞	646(2.6%)	前置詞	91(0.4%)	接続詞	67(0.3%)
代名詞	72(0.3%)	冠 詞	4(0.0%)	数 詞	39(0.1%)

品詞別での特徴は、名詞・動詞・形容詞が多く、総数24,629の96.3%までがこの3品詞で占められている。この開かれた語彙大系をもつ3品詞のみの比率は、名詞56%、動詞26%、形容詞18%となる。なお Duden の Die Grammatik(1984年版)に報告されているこの主要3品詞の一般語彙全体における推定値は、名詞60%、動詞25%、形容詞15%となっている。

1. 初級本における品詞構成

わが国における任意に取り出した数冊の初級(文法)読本に出てくる語彙の実用機能上の品詞別構成を調べたのが〔表Ⅱ〕である。

〔表Ⅱ〕 初級本の品詞構成(総語彙数14,796語)

名 詞	3,254(22.0%)	動 詞	2,910(19.7%)	代名詞	1,820(12.3%)
冠 詞	1,679(11.3%)	副 詞	1,673(11.3%)	形容詞	1,263(8.5%)
前置詞	1,131(7.6%)	接続詞	900(6.1%)	数 詞	126(0.9%)
その他	40(0.3%)				

その結果、BWに登録されている語彙と比較すると、多いものの順が異なり、代名詞、冠詞が多いのがわかる。このうちの主要3品詞に限っていえば、名詞43.8%、動詞39.2%、形容詞17%の割合になり、Duden の Die Grammatik の比率と比較すると、初級本では名詞が約16%少なく、逆に動詞が15%多い。次に品詞別語彙数とその順位を教科書毎(A~D)に挙げてみたのが〔表Ⅲ〕である。

〔表Ⅲ〕

Text	A 語彙数	順位	B 語彙数	順位	C 語彙数	順位	D 語彙数	順位
名 詞	395	1	567	1	1,017	1	1,275	1
動 詞	350	2	466	2	879	2	1,215	2
副 詞	286	3	241	5	518	4	628	5
代 名 詞	228	4	270	4	578	3	744	3
冠 詞	173	5	316	3	446	5	744	3
形 容 詞	147	6	190	6	414	6	512	6
前 置 詞	140	7	174	7	306	7	511	7
接 続 詞	117	8	95	8	268	8	420	8
数 詞	28	9	25	9	35	9	38	9
そ の 他	18	10	5	10	13	10	4	10
総語彙数	1,882		2,358		4,478		6,091	

その結果、順位が異なるのは副詞、代名詞、冠詞の順位の差のみで、初級文法を踏まえた各単元別の特色が現れ、平易な文章を用いているために、語彙の構成比率そのものはどのテキストもほぼ同じだと言える。

2. 中級本における品詞構成

初級読本と同様に、任意に取り出した数冊の中級読本に出てくる語彙の、品詞別構成を調べたのが〔表Ⅳ〕である。

〔表Ⅳ〕中級本の品詞構成（総語彙数13,890語）

名 詞	3,691(26.6%)	動 詞	2,035(14.7%)	冠 詞	1,821(13.1%)
前置詞	1,552(11.2%)	形容詞	1,379(9.9%)	副 詞	1,320(9.5%)
代名詞	1,039(7.5%)	接続詞	840(6.0%)	数 詞	213(1.5%)
その他	1(0%)				

初級本と比べてみると、動詞、副詞、代名詞の数が減少し、名詞、冠詞、前置詞が増加したのが目につく、主要3品詞に限っていえば、名詞52%、動詞28%、形容詞22%となり、やや名詞が少なく、形容詞が多いものの Duden の推定値に近い比率が得られた。

次に品詞別語彙数とその順位を教科書毎（E～G）に挙げてみたのが〔表Ⅴ〕である。

〔表Ⅴ〕

Text	E 語彙数	順位	F 語彙数	順位	G 語彙数	順位
名 詞	1,580	1	595	1	1,017	1
動 詞	682	3	595	1	879	2
副 詞	447	6	364	4	518	5
代 名 詞	385	7	449	3	578	8
冠 詞	751	2	322	6	446	3
形 容 詞	527	5	353	5	414	6
前 置 詞	601	4	289	7	306	4
接 続 詞	251	8	276	8	268	7
数 詞	87	9	20	9	35	9
そ の 他	1	10	0	10	13	10
総語彙数	5,285		3,263		4,478	

この表によると、中級本に出てくる語彙は、初級本の語彙と比べると品詞ごとによりかなり差が表れている。EとGのテキストは、語彙数の順位において大差がないが、Fについては動詞が名詞と同数で多い反面、全体では初級本に似た順位を表している。これは文法項目の確認をも考慮している中級への移行段階用のテキストの一種である。

3. Der Spiegel の雑誌記事における品詞構成

Der Spiegel に出てきた任意の政治、経済、社会、文化、スポーツ記事を取り上げ、調べたのが〔表Ⅴ〕の通りであった。

〔表Ⅴ〕雑誌記事の品詞構成（総語彙数14,162語）

名 詞	4,086(28.9%)	動 詞	2,102(14.8%)	冠 詞	1,934(13.7%)
前置詞	1,546(10.9%)	副 詞	1,443(10.2%)	形容詞	1,274(9.0%)
代名詞	797(5.6%)	接続詞	692(4.9%)	数 詞	282(2.0%)
その他	6(0%)				

動詞、副詞、代名詞の数が減少し、冠詞、前置詞が増加したのが目につく。主要3品詞に限っていえば、名詞55%、動詞28%、形容詞17%となり、やや名詞が少ないものの、初級、中級本よりも一層 Duden の推定値に近い比率が得られた。

次に品詞別語彙数とその順位を記事毎（H～L）に挙げてみたのが〔表Ⅵ〕である。

〔表Ⅵ〕

記 事	H 語彙数	順位	I 語彙数	順位	J 語彙数	順位	K 語彙数	順位	L 語彙数	順位
名 詞	281	1	1,414	1	1,436	1	498	1	457	1
動 詞	127	2	775	2	649	2	231	2	320	2
副 詞	79	6	627	4	413	5	123	6	201	4
代名詞	45	7	228	8	264	7	67	8	193	6
冠 詞	126	3	701	3	642	3	214	3	254	3
形容詞	89	5	494	6	363	6	152	5	176	7
前置詞	103	4	548	5	503	4	196	4	196	5
接続詞	39	8	243	7	229	8	70	7	111	8
数 詞	21	9	167	9	40	9	28	9	26	9
その他	2	10	2	10		10		10	2	10
総語彙数	912		5,199		4,539		1,579		1,933	

この表では、副詞・形容詞・代名詞・接続詞の語彙数にやや変動があるものの、極端に順位が変わっているものはない。

以上、3種類に分けて語彙数を眺めた結果、我国の中級以上のテキストに出てくる語彙の構成は、語彙そのものの難易さはあっても、ほぼドイツの雑誌記事のものと同等であると見なす事が出来る。なお、語彙の面から初級・中級の別を判断するには、難解語彙等の出土割合の他に、代名詞（人称・指示・再帰・疑問・関係・不定代名詞）、冠詞（定・不定・否定冠詞）、前置詞の割合からも取る事が出来るのである。

4. 次に、それぞれの内容から抜き出した複合名詞の構造を、その第一構成要素と第二構成要素に分類・分析し、パターン化したものが〔表Ⅷ〕～〔表Ⅹ〕である。構造分析に際しては、あくまでも共時的立場をとり、形態素構造体のほとんどが意味関係の組織上、2つの直接構成要素に分けられるので、二分法方式により次のような記号化を行った。

・直接構成要素が独立形態素の場合

例：Zeltlager </Zelt /・ /Lager/ <SN [SN・SV' (liegen)]

・直接構成要素が形態素構造体の場合（重合成）

例：Wiedervereinigungspolitik </wieder / /Vereinigung /・ /Politik /
<SN [SV' [Pa・SV' (vereinigen)]・SN]

4-1 〔表Ⅷ〕 初級本における複合名詞のパターンとその比率（総語彙数14,796中 394）

関 係	パ タ ー ン	A	B	C	D	合計語彙数	比 率
規定関係	SN [SN・SN]	45	26	38	146	255	64.7%
	SN [SV'・SN]	11	6	8	13	38	9.6%
	SN [SA・SN]	14	7	9	14	44	11.2%
	SN [PA・SN]		1			1	0.3%
	SN [SN・SV']	5	4	6	15	30	7.6%
	SN [SA・SV']	2			2	4	1.0%
	SN [SV'・SV']	1	1		5	7	1.8%
	SN [PA・SV']	5	1		2	8	2.0%
	SN [SN・SA']			1	1	2	0.5%
	SN [SA・SA']						
	SN [SV'・SA']						
	SN [SN・Z]			3		3	0.8%
	SN [Z・SN]			2		2	0.5%
合 計		83	46	67	198	394	

この結果、これらの初級本の総語彙数の約 2.7%、名詞総数の12.1%が複合名詞であり、第一構成要素（規定語）として名詞、動詞幹・動詞からの派生語、形容詞が表れ、基礎語として名詞が表れるものが全体の85.5%を占める。その次に基礎語として動詞幹または動詞からの派生語を持つものが12.4%ある。テキスト別の複合名詞の割合は総語彙数の1.9%～2.8%の間で、名詞総数の上では6.5%～21%と、多少のばらつきが見られる。

4-2 〔表Ⅹ〕 中級本における複合名詞のパターンとその比率（総語彙数13,890中 831）

関 係	パ タ ー ン	E	F	G	合計語彙数	比 率
規定関係	SN [SN・SN]	150	23	252	425	51.1%
	SN [SV'・SN]	44	6	62	112	13.5%
	SN [SA・SN]	31	3	75	109	13.1%
	SN [PA・SN]	3	1		4	0.5%
	SN [SN・SV']	22	13	77	112	13.5%
	SN [SA・SV']	1		2	3	0.4%
	SN [SV'・SV']	5	4	4	13	1.6%
	SN [PA・SV']	8	5	7	20	2.4%
	SN [SN・SA']	4		6	10	1.2%
	SN [SA・SA']	4			4	0.5%
	SN [SV'・SA']	1			1	0.1%
	SN [SN・Z]	7	2		10	1.2%
	SN [Z・SN]					
対等関係	SN [SN + SN]	2			2	0.2%
合 計		282	57	492	831	

中級本に現れた総語彙数13,890語のうち、複合名詞は 831語あり、全体の約 6 %を占めている。名詞の中での割合で言えば、22.5%が複合名詞ということになる。そのなかでも基礎語として名詞と結合しているものが、初級本と比べると、多少減るものの約79%を占め、次いで基礎語として動詞幹から派生した名詞（-er, -ung等）と結合しているものが、約18%と多い。テキスト別の複合名詞の割合は総語彙数の1.7%~9.2%の間で、名詞総数の上では 9.6%~32.5%とテキスト編纂の目的と内容によってかなりばらつきがあると思われる。

4-3 [表 X] Der Spiegelの記事における複合名詞のパターンとその比率(総語彙数14,162中928)

関 係	パ タ ー ン	H	I	J	K	L	合 計 語 彙 数	比 率
規定関係	SN [SN · SN]	20	91	146	45	43	345	37.2%
	SN [SV' · SN]	6	93	38	18	17	172	18.5%
	SN [SA · SN]	5	20	23	9	9	66	7.1%
	SN [PA · SN]			9	7	2	18	2.0%
	SN [SN · SV']	13	69	40	15	22	159	17.1%
	SN [SA · SV']	5	21	10	4		40	4.3%
	SN [SV' · SV']	4	41	8	5	6	64	6.9%
	SN [PA · SV']	3	4	8	4		19	2.1%
	SN [SN · SA']	1	2	10		4	17	1.8%
	SN [SA · SA']		2	7	2		11	1.2%
	SN [SV' · SA']		2	4		2	8	0.9%
	SN [SN · Z']		2				2	0.2%
	SN [Z · SN]			1		1	2	0.2%
	SN [Z · SV']		1				1	0.1%
	SN [PA · Z']				1		1	0.1%
	SN [Z · Z']		1	1			2	0.2%
対等関係	SN [SN + SN]			1			1	0.1%
合 計		57	349	306	110	106	928	

Der Spiegel に現れた総語彙数14,162語のうち、複合名詞は928語あり、全体の6.5%を占めている。名詞の中での割合で言えば、22.7%が複合名詞ということになる。そのなかでも基礎語として、元来の名詞と結合しているものが全体の65%、次いで動詞幹からの派生名詞と結合しているものが約31%という結果がでた。

4-4 中級以上の読み物になると、複合名詞の割合が語彙全体の 6 %以上、名詞総数の 2 割以上も表れている。初級本ではSN [SN · SN] のパターンだけでも65%近くあり、基礎語として名詞が表れるものが大半を占めるのに対し、中級以上になるとこのパターンは35%~50%に減少し、一方で基礎語として動詞幹や動詞からの派生名詞が多くなり18%~31%を占めている。また構成要素として形態素構造体が表れる重合成名詞の割合も、初級本では複合名詞全体の 2 %程度であるのに対し、中級以上になると 7 %近く表れる。なお、形態素構造体の中には外延的派生語を作る前綴（前置詞，super-, haupt-, ober-, grund- 等）や後綴（-er, -ling, -mäßigkeit, -niß, -schaft, -heit, -keit 等）を伴うものがあるが、ここでは形態素構造体としてではなく、1 構成要素としてカウントしてある。

5. 結 び

以上の結果は1万数千足らずの語彙を観察したにすぎず、実用語彙の統計を出すにはやはり10万単位で行うべきであろう。しかしどれくらいの割合でテキストの品詞が構成され、又どのくらいの複合名詞が使われているのかという問いに対する一資料として調べてみたのである。しかし、品詞の分類においても、合成語の分類においても、境界に立っているものをどう扱うかという点で、考え方を統一すべきである。例えば、文法書の中で形容詞としての語尾変化を説明する所で所有代名詞、指示代名詞などと書かれていることや、文中で派生前綴か副詞かを区別する時点で大変不便なことがあるように思える。これに対し歴史言語学の解答はそれなりに価値のあるものであるが、實際上、さほど役には立たない。

上述の本稿では、複合名詞を取り上げて分析してきたが、複合形容詞や複合動詞も含めると実際用いられている総語彙数の1割が複合語で、さらには派生語も加え合成語全体を考慮すると2割近くが語彙面で何らかの人工的な操作、創作が行われていることになる。ドイツ人にとっては何ら苦労もなくこの操作が行え、解釈されているけれども、ドイツ語を母国語としない外国人にとっては、大変な苦労の種を蒔いていることになる。現代に至っては科学技術の急速な進歩と共に、それを表現する言葉の面でもいっそう拍車がかかり、複雑化の一途を辿ることになる。これはドイツ語の問題のみならず、合成語の構造が全く類似しているわが国でも同じである。

複合名詞のパターンの記述に用いている記号の説明

SN : 名詞

SA : 形容詞又は形容詞幹 (含分詞)

SA' : 形容詞 (含分詞) から派生された名詞

SV' : 動詞幹又は動詞から派生された名詞

PA : 不変化詞 (特に副詞)

Z : 数詞

Z' : 数詞から派生された名詞

・ : 構成要素の規定関係を現す結合記号

＋ : 構成要素の対等関係を現す結合記号

Anmerkung

※ ENERGEIA 13 1987, ドイツ文法理論研究会 S. 46

馬越康恭 「現代ドイツ語の日常語彙において基礎的形容詞がまかなう意味の分野」

Literaturen

- 1) Duden, Der Grosse Duden Bd 4. Grammatik Mannheim 1984
- 2) Duden, Der Grosse Duden Bd 10. Bedeutungswörterbuch Mannheim 1970
- 3) Wolfgang Fleischer, Wortbildung der deutschen Gegenwartssprache 4. Aufl. Leipzig 1976
- 4) 大修館発行 英語学大系 第3巻「文法論Ⅰ」1972
- 5) “Elementares Lesebuch” Ikubundo Vlg. Nobuo Iizuka 1981
- 6) “Deutsch als Brücke” Sanshusha Vlg. Keitaro Miyauchi 1989
- 7) “Modernes Deutsch für Anfänger” Asahi Vlg. Asao Okada 1985
- 8) “Deutschland und Deutsch” Asahi Vlg. Minoru Tsuneki 1983
- 9) “Weimar” Asahi Vlg. Mutsumi Hayashi 1983
- 10) “Deutsche Aufgaben für Mittelstufe” Ikubundo Vlg. Yoshitaka Abe 1983
- 11) “Deutschland und Japan” Hakusuisha Vlg. Hans Hillenbrand 1988
- 12) “Der Spiegel” Nr. 34, 21. August 1989, Seite 154~156
- 13) “Der Spiegel” Nr. 38, 18. September 1989, Seite 32~53
- 14) “Der Spiegel” Nr. 20, 15. Mai 1989, Seite 18~24
- 15) “Der Spiegel” Nr. 36, 4. September 1989, Seite 16~21, 45~50